

「名東区安心・安全で快適なまちづくりの日 通学路ウォーキング」取材しました！

チーム名東は、2008年11月16日（日）に、名東区内の全学区で開催された「名東区安心・安全で快適なまちづくりの日：通学路ウォーキング」取材しました。取材者は、椋山女学園大学教育学部1年生の松岡彩、守永光希、堀なつ美、牧淳美の4名です。松岡彩は名東区役所の巡回車両に同乗して、貴船、牧の原、西山、名東の各小学校をまわり、あとの3名は前山小学校に焦点をしばって取材を行いました。



前山小学校では、通学路の途中で空き缶やゴミを拾いながら歩き、小学校に到着すると、そのゴミみたらし団子3本と引き換えることができるという趣向で活動を行っていました。学校については分別についての環境講話会。講話会では名東区区役所環境事業所の丹羽さんがゴミの分別について、特に12月1日から始まる新しい分別の区分についてわかりやすく説明していました。様々な種類のゴミのサンプルを分別するクイズでは、小学4.5

年生たちが楽しみながら分別について学びました。

この活動を主催した前山学区の自治会長の加藤さんにお話を伺ったところ、「この活動は、ふれあいながら町をきれいにする活動で、安心安全快適なまちづくりを目標に行っています。今日は残念ながら雨が降っているのですが、例年より参加者の数が少なめですが、雨の割にはたくさん来てくれました。現在は地域の付き合いも変わってきたのでこういうイベントを通して地域が団結し、仲良くなれるといいと思います。ゴミのマナーはいくら国や市が呼びかけても地元の人が動かないと改善されません。名東区は单身の方が多く、ゴミのマナー問題がたくさんあるので、まずはゴミのマナーを徹底的に改善していきたい」とお話ししてくださいました。

このイベントは地域の方々がゴミ問題に改めて向き合うことのできるとても良い機会になっています。子ども達も「ゴミ分別クイズが楽しかったです。分別のことがよくわかりました！」と話してくれました。空き缶をみたらし団子に交換することができ、クイズ形式で分別について学ぶなど、親しみやすい工夫がされていて、参加者もとても楽しそうでした。ボランティアの方々はとても温かい人ばかりで、地域を良くしようという気持ちが伝わってきました。

